



山本 陽子

日本共産党
京都市会議員

2月
市会報告

新年度を前にした2月予算議会。

京都市政にモノ申すお母さんたちが京都市役所に集まっていました。

行政は少子化対策、子育て支援と言いながら、上がる保育料、入れない保育園。

働けない母親…。国会でも取り上げられて、各地で声があがりました。

生の声突き刺さった2月予算議会。

その切実な声を届け続ける重要性を痛感しています。

2年目も頑張ります!! どうぞよろしくお願いいたします。



メール shikai@yamamoto-yoko.jp

京都 山本陽子



子育て支援

保育士の処遇改善を求めました



新年度に向けて保育士の処遇改善を質したところ、「現時点で京都市は国基準の1.4倍。保育士の平均賃金は309万円だが、京都市は436万円である」として現状の追認の答弁です。しかし、昨年、議会が決議を採択し、処遇改善を求めたということは、実態はもっと厳しいということに他なりません。

保育士の給与を保障してきたプール制が、モデル給与表も完全に実施しなくてよい裁量制へと変えられてきました。実際に、手元に1.4倍の給与が渡ってこそ責任は全うされたと言えるのです。

待機児童は京都にもいる!

国基準の待機児童の定義では、希望した保育所に入れず別の施設を紹介されても断らざるをえない場合、待機児童にはカウントされません。この定義で、京都市は2年連続「待機児童ゼロ」を達成してきたと言いますが、保育園に入れられない実態をゆがめることとなります。実際、昨年京都市は514人の潜在的な待機児童がいました。

国の緊急政策が、保育園不足、保育士不足を規制緩和で乗り切ろうとしていることも問題です。どの子も差別なく認可保育園に入れるような整備こそ急務です。

子どもの貧困対策を

京都市が子どもの貧困対策プロジェクトチームを立ち上げるという方針が示されました。まずは、京都市の子どもの貧困の実態調査から始めなければなりません。民間で支援活動をされている方のご意見も取り入れるように求めました。

また、国の提言を受けて、ひとり親家庭への支援の充実も求められており、「ひとり親家庭日常生活支援事業」について質しました。一時利用の制度が定時利用可能な制度に改善されます。ひとり親で働きながら子育てするために本当に必要な制度です。

「原発ゼロ」は国民の確かな願い!

「原発のない未来へ! つなごう福島! 守ろういのち!」3.26全国集会に参加してきました。福島の地元の方が、「原発事故に対して誰も責任をとっていない! 2018年の賠償打ち切り、住宅の無償貸与の打ち切りは、原発事故を終わったもの、なかったものにするのだ!」と訴えられた言葉が胸に刺さりました。

国は復興、復興と言いながら、原発再稼動を進めています。被災者の命や、健康や、ふるさとを奪ったことを考えるなら、到底、再稼動できるものではないはずです。

未来へつなぐのは、「原発ゼロ」の社会、再生可能エネルギーへのパワーシフトです!



戦争法廃止へ2000万署名にご協力を

戦争法廃止! 安倍政権打倒! のために力を尽くす4野党の共闘は市民の皆さんの願いです! 今、戦争法廃止を求める2000万署名に大きく取り組んでいます。訪問の署名活動も、とっても重要です。

今年から大学進学という青年が、インターホン越しに署名に賛同し玄関にでてくれました。戦争法には関心がある。学生のシールズの活動も知っているとのこと。夏の参議院選挙で初の18歳選挙権を行使する若者です。訪問だからこそ、繋がれる貴重な活動です。

